



図書館トピックス

市民の皆様へ

国東市図書館長公募制館長選考により8月1日から引き続き市図書館長を拝命いたすことになりました、松本智恵美と申します。これまで以上に、皆さまが利用しやすい、そして市民の方々に親しまれる図書館づくりにまい進して参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。図書館へのご要望などございましたら、お気軽にお申し出ください。

国東市図書館 館長 松本智恵美



盆踊りなど郷土の唄の音源(CD・カセットテープなど)をお持ちではございませんか？

盆踊り、郷土の唄など市の情報を保存し、後世に残すのは図書館の大切な役割です。この夏は各地で盆踊りが開催されたかと思ひます。CDやカセットテープなどの音源をお持ちでしたら提供をお願いします。

協働展示開催中

9月は世界アルツハイマー月間です。市内4館で順次関連資料の展示を行いますので、ご覧ください。

9月1日(金)～9月28日(木) くにさき図書館

図書館イベントカレンダー

9月9日(土) 4館おはなし会 午前11時 くにさき図書館 武蔵図書館 安岐図書館

9月10日(日) 4館おはなし会 午前11時 国見図書館

9月14日(木) あかちゃんおはなし会 午前11時 くにさき図書館

休館情報(市内全館)

Table with 2 columns: Day/Event and Date. Rows include '毎週月曜 図書館休館日' (9/19) and '資料整理日' (10/10).

司書のイチオシ

『とりつくしま』 東直子/著 筑摩書房

「この世に未練があれば何か物にとりついて愛する人を見守ることができる。ただし物なので見守るだけです」と言われたら、あなたはどうしますか？ 11篇の短編で構成されており、見守るだけでも良いから、愛する人の傍に居たいという思いが伝わる本です。



祖母に貰った40年以上愛用した久留米餅のぼんてんを断捨離しました。読書後、もしかすると、そのぼんてんは祖母のとりつくしまではなかったのかと思わずにはいられません。私のお薦めは3番目の『青いの』です。泣けます。

安岐図書館 河野 裕子

志成学園(9年生)のイチオシ

『そば打ち甲子園!』 そば打ち研究部/著 学研プラス

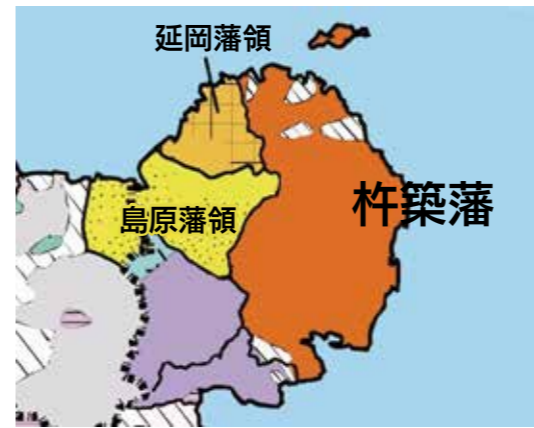
部活が義務になった高山女子高校。今さらどこにも入りたくない「帰宅部」の亜美は、「そば打ち部」を新設する。超マイナー競技で高校日本一に挑戦することになった、5人の女子高生の奮闘を描く、爆笑と感動の青春小説。



「そば打ち部」を新設した亜美が全国大会を目指し仲間と奮闘するコメディと感動の青春ストーリーです。将来、人の役に立つ仕事に就くために高校受験を頑張っています。

志成学園9年 あおい 豊村 葵さん

- List of library branches and phone numbers: 国見図書館 (82-1585), くにさき図書館 (72-3500), 武蔵図書館 (69-0946), 安岐図書館 (67-3551).



1805(文化2)年6月に杵築藩は差別された人々に対して、「衣類の上着に水色(浅黄色)の半襟を掛けるように、ただし、盗賊吟味(捜索)で忍びで調査(内偵)しているときははずしてよい」という法令を出しました。このころは、飢饉災害が起こり、民衆の生活は困窮を極め、藩財政も厳しい時でした。そのような状況のなか年貢増収策を実施したため、「百姓一揆の禁止の

法令を出し、百姓の抵抗を抑えようとした。また、緩んだ身分制度を強化維持するために差別された人々であることが一目でわかるように水色(浅黄色)の半襟を付けさせる厳しい政策も行いました。差別された人々は、土地を持つている人は米を作り年貢を納め、土地を持たない人は百姓の手伝い(稲・七島蘭)などをしていました。また、犯罪者の捜索や逮捕の役目であり、日頃から百姓・町人と交流がありました。そのため、浅黄半襟掛けの法令が出たとき、なぜ自分たちだけが差別されなければならぬのかと怒りを持ちました。差別された人々は法令に対し、抵抗の意思を示すために他の領地へ逃げる行動(逃散)を起します。これまで住み慣れた土地

と家族を残し離れていくことや、もう二度と戻れないかもしれないう不安を抱きながらの逃散でした。杵築藩内169人の差別された人々が、隣藩の島原藩領の仲間のもとに身を寄せ、島原藩は逃散してきた人々に、食料を準備しました。杵築藩は逃散があったことを表沙汰にしたいため、島原藩と協議を重ね「逃散はなかったことにして帰村を促す」としました。その結果、逃散した人々は約3か月後に全員無事に帰村してきます。その後、水色(浅黄色)の半襟掛けは実施されませんでした。差別された人々が、逃散一揆をおこしたのは、1804(文化元年)の両子の百姓たちによる逃散一揆という先例があったからでした。生活に困窮した両子の百姓たちは「助合米(困窮への救済米)を出してほしい」と要求し、隣藩の島原藩領へ逃散しました。

身分社会であり、差別が当然とされていた近世幕藩体制において、差別に抵抗することは困難を極めました。しかし、その社会のなかでも、先人たちは差別体制のなかをたくましく生き抜き、差別に対して不屈の闘いを展開しています。差別された人々が闘った一揆としては、1856年(安政3年)の岡山藩・浅黄半襟掛け拒否逃散一揆はそれよりも50年も早く起きています。

シリーズ部落差別の問題②8 「浅黄半襟掛け拒否逃散一揆を知っていますか？」

参考文献：大分県史Ⅳ、おおいた部落解放史7号、大分県部落解放小史 文 責：学校教育課 財前 俊弘